

手賀沼通信(第283号)

Eメール: nittay@jcom.home.ne.jp
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai

http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/
http://tegatu2.web.fc2.com

新田良昭

弟が胃がんの手術やその後の抗がん剤治療でしばらくエッセイを書けなくなりましたが、やっと戻ってきました。うれしいことです。

特別寄稿

血液型の話いろいろ

新田自然

大相撲の大関朝の山は、令和3年春場所にて途中退場となった。日本相撲協会策定の「新型コロナウイルス対策ガイドライン」を破ってキャバクラ通いをしたというのだ。最も好調だと伝えられた朝の山だったが、前半より負けが込み、思いつめた表情が、明らかに普通の敗けの時と違っていた。「何かある」と感じたのだが、週刊誌にそのことを暴露され、一旦は否定したものの、証拠写真を突き付けられ、「もう逃れられない」と思いつめた表情であったのだ。その顔つきを見て「この人はA型だな」と強く感じた。

その少し前、前頭の阿炎が、同じような違反をして3場所出場停止となった。インスタグラムへの不適切投稿をはじめとして、再三の不祥事にもあまり反省したととれるものはなく、協会の講習にも「寝てました」などと発言、物議をかもした。明るい性格と言えはそれまでだが、その時の阿炎からは、そんな深刻な表情は読み取れなかった。調べてみると、彼の血液型はB型だった。

話は違って、40年も前の話、つまり現役で名古屋支店にいたころ、当時の上司、Y部長の誘いでプライベートゴルフに行った。役職上の上下はあるが、いずれも親しい仲間だった。Y部長が、「新田君、よく見てろ、あいつはA型だ」と、ニヤッと部長は笑って「おい吉川、注意しろ、右側に池があるぞ」。それを聞いた吉川課長は何度もスイングして見事に池に放り込んだ、「やな部長だな、余計なアドバイスするから池ポチャだ」とグチった。部長は素知らぬ顔つきで、私にウインクしてみせた。

そのころ能見正比古なる人物が「血液型人間学」という本を出して、わが国は血液型ブームに沸いていた。「A型は真面目で他人の言うことを気にする」「B型は気まぐれ」「O型は積極的で猪突猛進」「AB型は個性的で二重人格」などと、有名人の血液型から、それぞれの血液型をそんなふうに分類した。「なるほど、俺もO型だからそっくりだ」とか本を読んだ人が共感し、本紙ベストセラーになった。

だが、血液型の話は「科学的な根拠がない」という学者や知識人が現れ、「差別につながる」「興味本位で論ずべきでない」ということになり、マスコミからも消え、表面的には話題にされなくなった。

因みに私はA型である。血液型の話がすっかり消えてしまっても、私には「この人は絶対に自分とは同じ血液型でない」と感じる人がいて、私はまだ血液型性格分類の信者であった。くだんの朝の山は見事にA型であった。

そんな事もあって、図書館へ行って調べてみたら、いい本があった。藤田紘一郎著、「パラサイト式血液型診断」(新潮社刊)。この先生は東京医科歯科大名誉教授で、医学博士。この先生を有名にしたのは、自分の腸内でサナダムシを飼い、それに名前まで付けて、「サナダムシは宿主たる人間を殺さない、むしろ宿主にとって、悪いものを食って助けてくれる」などと、実体験を発表したのだった。免疫学、寄生虫学、熱帯医学の泰斗で、著書も多い。

血液型による性格の違いが、どんな特徴に分けられるかということだ。まず政治家で見ると、歴代の総理大臣は多くがO型で、吉田、岸、池田、福田、中曽根、鳩山、菅、現在の菅首相もO型だ。A型には、佐藤、三木、小泉。B型が、角栄、安倍、竹下。AB型は宮沢、橋本ぐらい。有名経営者にはA型とO型が多く、A型には、松下、本田、井深、O型に、盛田、三木谷、孫、AB型に稲盛、など。B型には目立った人が見つからなかった。

スポーツ選手にはO型とB型が多い、王、松井、

松坂、中田英寿、などがO、今を時めく大谷、イチロー、長嶋はB（息子の一茂もB）だ。芸能関係にもO型が多く、ひばり、タケシ、鶴瓶、小百合など、サンマ、出川などがB。これらのジャンルにおいてA型は極めて少なく、文学者において、漱石、太宰、三島、谷崎、司馬、村上春樹、他に報道番組のキャスターなど。出番の少ないのがAB型で、前述の稲盛のほか、将棋の羽生、文学者では慎太郎（裕次郎はA）だったそうだ。

日本人の血液型の分布は大まかに、A—40%、O—30%、B—20%、AB—10%、からすると、こういった大まかな特徴があるのは事実だが、先生は、このような状況証拠的発想ではなく、なぜそうなったかを疫学的な見方から類推する方法をとっており、このほうが説得性を有すると思えた。

紀元前4万年くらい前、地球上に現れたクロマニヨン人の血液型はすべてO型だった。狩猟民族であった彼等がアフリカでは食えなくなって、世界に散っていった。そして、2万5千年前から1万5千年前、アジア地方で定着し農業を行うグループにA型が誕生した。

ヒマラヤの山岳地帯に異動したグループは、アフリカのサバンナ地帯から寒いヒマラヤに異動する過程で混血があり、遊牧民的な生活などにより、B型が誕生した。

AB型は最も新しい型で、千年ほど前に誕生したとみられる。西暦9百年以前の墓からはAB型の人間は見つかっていないようだ。東方の騎馬民族が西へ侵略する過程で、A型とB型の混血が起こり、AB型が誕生したとみられている。

そもそも血液型は、当初O型人間の体内の腸内細菌に、A型物質とB型物質遺伝子が遺伝子移入を起こし発生したものであるようだ。なぜ最初にはO型人間だったのかは、世界の先住民族がすべてO型であったことから推定している。

次に世界の主要地域の血液型分布状況を見てみると、A型はヨーロッパ、とオーストラリア南部、日本に多く、B型はアフリカ中央、中央アジア、中国に集中していて、南北アメリカには多くない。O型はアフリカに多く、オーストラリア北部、南北アメリカに多く分布している。

民族のABO血液型の分布は、単に遺伝によってもたらされたものでなく、狩猟、農耕、遊牧などの

民族性、移動による交流、そして、過去にどのような伝染病が流行したかによって決まっているという。

天然痘や、ペスト、コレラといった重篤な伝染病は数度となくパンデミックを起こしたが、ペストでは、ヨーロッパとくにイタリア、トルコ、中国など。コレラではインドガンジス地方、日本、韓国、などの人口構成に影響を与えている。

とくに明白な例が梅毒で、南北アメリカの人口構成に最も多く影響したようで、罹りやすいAB型人間が壊滅的被害を受け、罹りにくいO型人間だけが生き残ったというくらいひどいものであった。南北アメリカの人口構成でAB型は2~3%になったことが、このことを裏付けているようだ。ヨーロッパでもO型優位の人口構成となった。

ガンに罹りやすいかどうかは血液型によって差があるという。ガンに罹るかどうかは、食物や、薬品、嗜好品、ストレスなど、いろいろな要因があるが、O型の人は罹り難く、A型の人は罹りやすい。その他の生活習慣病、糖尿病、心臓病、などもA型の人は弱い。

病気の種類によって罹りやすいものとそうでないものがあるが、概していえばO、B、A、ABの順に強弱が分かれる。

このような血液型による病気のかかりやすさ、重症度の違いが、積極性、慎重度など、性格形成に影響しているというのが先生の見方だ。個人の性格形成の要因は「環境的要因」によって違ってくるものでもあるが、血液型の影響は決して少なくないと思われるようだ。

また、新潟大学の安保教授は、交感神経優位の人は活動的で、副交感神経優位の人はゆったりとした性格になると主張する。人間ドックで五千人を対象とした測定の結果から、副交感神経型の強さの割合は、O、B、A、ABとなったそうだ。副交感神経が多いO型はストレスに強く、持久力の強い性格になり、反対に交感神経優位が強いAB型は感受性が強く芸術肌の性格になる。その中間に位置する、やや副交感神経型のB型は実行力が加わり、その逆のA型は情熱的になると推定している。ストレスに強く、持久力のあるO型は、政治家やスポーツ選手を生み、感受性が強く、情熱的なA型人間が文学者になった。

「性格が、たった1種類の血液型遺伝子で決まるはずがない」と常識者は言うかもしれないが、このように、長く繰り返された人類の病気との闘いが、

血液型の性格形成に影響を与えたと十分に考えられるのではないか。

ここまで血液型の特徴を見て来たが、あれこれ言っても仕方がない。それぞれの生まれ持った血液型を変えるわけにはいかないのだ。それは自分が自分であるように、運命として決められているものだ。だが自分の血液型を知ることは無用でないと思う。私も、こうやって83年も生きて来たのだが、自分の血液型が、行動や病気に見事に現れている。その一つが生涯の病となった胃がんだ。幼少のころ祖父が胃がんで苦しむのを見て、直感的に「自分も胃がんになる」と思ったのは不思議である。若いころからガン保険を複数加入したり、人間ドックなどがん検診は手厚く実施してきた。にもかかわらず、健診で胃がんが発見された時、「ああやっぱり」と思ったものだ。

自分がA型だと感じたのは他にもある。これまでの人生において、行動力、決断力のなさがいろんなチャンスを逸してきた、人生のいろんな岐路に立った時、石橋を叩いて渡らななことがいくつかある、それが結果的に大きな失敗もおかさなくて済んだようにも思える。すべてが血液型ではないが、何となく頷けるのだ。

東大名誉教授で政治学者の姜尚中氏と作家伊集院静氏は、ともに在日の二世でそれぞれの分野では著名である。かなり前だが、二人の対談記事を読んだことがある。その記事の中ではなかったと思われるが、姜氏が伊集院氏を評した記事に出会った。「もしツアーアウト満塁で自分の番が巡ってきたら、そうやってほしくない自分がある。しかし彼は『よしっ、俺が行くぞ』とバットを持って飛び出して行くような男だ」と評していた。姜氏はA型である。伊集院氏は分からない。そんなことはどうでもよい、と感じているのかもしれない。

この時姜氏が感じていたことは、私が感じていた「この人は自分とは違う血液型だ」と感じていたと思うのだが。

AB型が千年ほど前に姿を現したということは、新しい血液型が生まれるかもしれないということでもある。こんなにグローバルな社会となり、食品や嗜好品、薬品その他、腸をめぐる環境も激変している。とすれば新血液型が生まれてもおかしくはない。

新しい「X型」と仮に称する血液型は、如何なる気質を備えているだろうか。(2021/7/19)

(追記) 2020東京オリンピックも終わって、テレビの楽しみも消えた。いろいろエピソードを残してくれたが、なかでも中国を破った卓球には興奮した。とくに(伊藤)美誠ちゃんのサーブする時のボールに対する集中力(目つき)、失敗した時の、次のゲームに向けての切り替えの見事さは自分の血液型ではないと確信した。

調べてみると、三人娘はすべてO型、水谷選手はB型で、運動選手にはOかBが多い、という仮説が見事に証明された。

20世紀のベストナイン

(手賀沼通信第280号で以前手賀沼通信第33号<2000年12月>に書いたプロ野球の記事を再掲しました。以下はその33号に書いた続きの記事です。)

20世紀が幕を閉じる今年、いろいろなところで20世紀のプロ野球ベストナインを選ぶ企画が行われています。

読売新聞にも大きく掲載されていましたが、今日はインターネットの個人のホームページで探した20世紀のベストナインと私が好みと独断で選んだベストナインをご紹介します。インターネットのベストナインはそのホームページのオーナーが決めたのではなく投票で選んだものです。私のは私が選びました。皆さんの考えたベストナインと比べてみてください。

ポジション	プロ野球ジャーナル	ベースボール・レコルト・ミュージアム	新田良昭
投手	江夏豊	沢村栄治	金田正一
捕手	野村克也	野村克也	野村克也
一塁手	王貞治	王貞治	王貞治
二塁手	ローズ	篠塚和典	千葉茂
三塁手	長嶋茂雄	長嶋茂雄	長嶋茂雄
遊撃手	松井稼頭央	松井稼頭央	吉田義男
外野手	イチロー	イチロー	イチロー
外野手	張本勲	松井秀喜	張本勲
外野手	松井秀喜	福本豊	福本豊

(投手)

分かれましたね。好みの問題かもしれません。

江夏はその強烈な存在感とここといふときの勝負強さでしょう。阪神時代にオールスター戦で見せた9連続三振の記録はまだ破られていません。広島時代、阪急との日本シリーズで9回のピンチに登板し、見事日本一を勝ち取った「江夏の21球」も有名です。

沢村は日米野球でベーブ・ルースやルー・ゲーリックをきりきり舞いさせた印象と戦争で散ったことが選ばれる原因となったと思われます。

私の選んだ金田は記録です。投手のほとんどの記録を独占しています。400勝、奪三振4490は2位を大きく引き離しています。14年連続20勝以上、沢村賞、最多勝、最優秀防御率いずれも3回取っています。

(捕手)

野村は生涯一捕手として、努力の結果積み上げたMVP5回、三冠王1回、ホームラン王9回、打点王7回、ベストナイン19回は文句ありません。全員一致です。

(一塁手)

王も全員一致です。ホームラン868本は世界記録です。ホームラン王15回、打点王13回、三冠王2回、MVP9回ほか記録は書ききれません。三冠王3回の落合は一塁手だったため不運でした。

(二塁手)

これは分かれましたね。二塁手は最も人材不足のポジションです。強打のローズ、好打の篠塚も他のポジションの選手に比べるとやや物足りなさを感じます。

私の選んだ千葉は若い人は知らないと思いますが、川上などと一緒に戦後の巨人の第一期黄金時代をつくった選手です。この二人が私を巨人ファンにしてくれました。ライト打ち（今でいう右打ち）の千葉として一世を風靡しました。ともかくしぶといバッターでした。私のふるさとの名門松山商業の出身です。通算記録では3塁打が30番目に入っています。

(三塁手)

全員一致です。長嶋の素晴らしさはとにかくチャンスに強かったことです。プレッシャーのかかる開幕試合5年連続ホームランという日本記録があります。公式戦のMVP5回は王の9回にかないませんが、王が日本シリーズで取れなかったシリーズMVPを4回も取っております。打ってほしいときに打ってくれたのが長嶋でした。同じ巨人の4番の原には歯がゆい思いをしましたし、松井もその点ではまだまだと思います。

(遊撃手)

インターネットの投票では松井稼頭央が選ばれています。若い人の多いインターネットの投票では現役が入るのは当然かもしれません。はつらつとしたプレーは現役ナンバーワンでしょう。しかし20世紀という点で考えるとやはり今牛若丸といわれた吉田でしょう。巨人阪神戦の試合前の練習でボールなしのフェイントで内野の球回しを見せてくれましたが、はじめて見た時の驚きは言葉になりませんでした。バッティングのしぶとさも当時ナンバーワンでした。

(外野手)

イチローは全員一致です。7年連続首位打者を継続中です。日本にいればあと何年継続できるかわかりませんが、来年からは大リーグに移るため記録は中断します。まだ27歳の若さですが20世紀の代表的外野手に間違いありません。

張本は安打3085本で3000本を超えたただ一人の選手です。広角打法で安打製造機といわれました。猛打賞251回という日本記録も持っています。落とすわけにはいきません。

福本はなんといっても1065の盗塁があります。盗塁王13回、ベストナイン10回、ゴールデングローブ賞12回の燦然たる記録があります。足が速いため守備も鉄壁でした。

確かに松井選手は現役の外野手としては最高です。しかし20世紀代表する選手としてノミネートするにはまだ実績が足りません。まだ26歳、素晴らしい可能性を秘めていますので21世紀のベストナインには間違いなくなれるのではないのでしょうか。ファンとしてはそう願っています。（新田注：この時はまだヤンキースに行く話はありませんでした）